

ピグマリオンぷちの知育

成績一番。ココロも一番。「教えずに学ばせる」本物の幼児教育。



脳は本来、学ぶことが楽しい

脳は本来、学ぶことが楽しい。

これは、なんという素晴らしいしくみでしょうか。そして、そのしくみを、いっそうすぐれたものにする 것도可能であるというところに、人間に与えられた不思議な能力へのよろこびをつくづく感じます。ただし、その素晴らしいしくみができあがっていくときに、きちんとしたケアができていなければ、せっかくの大きな潜在力が生かせないばかりでなく、むしろマイナスにはたらきかねないということも忘れてはならないことです。

人が、人としての知性を育て、豊かな心とすぐれた能力を獲得していくために、核心となる脳の重要な部分があり、生まれてから八歳ころまでの間に劇的に完成されていくこと。裏返せば、発達の機会がこの時期にある程度しぼられるという厳然たる事実は、あらためて幼児教育の意味を問いかけます。

幼児教育の重要性を語ることは、けっしてそれ以降の教育を軽視するものではありません。成長するにしたがっていっそう必要となる教育を有意義なものにできるためにも、基本的な学ぶ力を育てておくことが、いっそう大切になるのです。

十年先の一年、二十年先の一年と、この時期の一年では重みが違います。能力を高めようとする意欲、視野を広げる喜びを、幼児期にしっかり育ててあげることが、将来、人間としての能力や人格の幅を広げるための確実な原動力となるのです。



まずは、体験レッスン

☎090-7480-2575



ashiyamamasalon@gmail.com



そして面談の後、入会
の手続きに移ります

入会金10,800円

必要教具＋お月謝
10,800円のお支払い



いよいよ、
授業をスタート！

時間と曜日、担当講師
を決定します。

三つ子の魂百まで

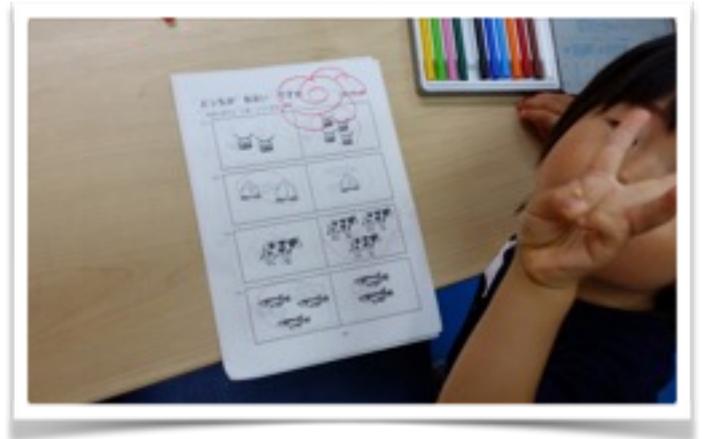
昔の三つとは、数え年での計算なので、現在では2歳児のことをいいます。

幼児期は、何に対して喜怒哀楽を感じるか、何に価値を認めるか、どのような心と能力に育つかの、心と能力の第一段階の成立期であるといえるでしょう。一度成立した能力は、創造力によって、新しいものを創造しない限り、思考の前提能力として固定してしまうという事実をみると、正しい教育、本物の教育こそが、幼児期の教育、つまり幼児教育に必要な不可欠なのだということがいえましょう。

ところで、記憶とは、脳の神経細胞への傷のようなものだとされます。傷は傷痕としてのこり、傷をしなかった以前に戻ることは困難です。そして、心や能力は、記憶として脳の神経細胞の中に蓄えられますので、人間の脳の完成が、3~4才で70%、4~5才で80%、5~6才で90%、10才前後でほとんど完成すると言われていています。

これと関連して考えてみましても、この時期に育成された能力が、後の時期に大きな影響を与えること疑いようのない事実だと考えられるのです。

昔から「おけいごとは、『つ』の付く時までには始めなくてはならない」と言われています。それも、この時期の大切さを表しているといえるでしょう。



脳認知科学によれば、人間の知能は、①指先を含む運動能力、②空間位置把握能力、③図形形態認知能力、④数論理能力、⑤言語能力⑥社会性という6つの領域からできています。ピグマリオンのカリキュラムは、この6つの能力を育成するために、これらの要素を1回の授業の中に全て盛り込んだカリキュラムとなっています。



ピグマリオンGO

ピグマリオン・メソッドは、ピグマリオン学育研究所の伊藤 恭先生が開発された独自の専用教具を用い、空間図形把握能力に加え年少児で20まで、年中・年長児で1万までの4桁の数概念を育成します。このメソッドは幼児の能力開発に驚異的な成果をあげており、その証拠に灘中合格者日本一の浜学園が運営する幼児部門「はまキッズオルパスクラブ」にピグマリオンメソッドと専用教具を提供しているのがピグマリオン学育研究所を設立された伊藤 恭先生です。

ピグマリオンの専用教具で育む 6つの能力

- ① 指先を含む運動能力
- ② 空間位置把握能力
- ③ 図形形態認知能力
- ④ 数論理能力
- ⑤ 言語能力（母語）すなわち日本語＝国語力



ピグマリオン幼児教育メソッドは心と知性の両方を創りあげる 幼児期の教育は、他の時期の教育以上に大切です。

なぜなら、幼児期の子育てが心と能力の両面を育てるからです。人間は完全な形で生まれてくるものではありません。生まれてから出会うさまざまな環境や人間関係の中から、自分が生きていくのに見合った心と能力を身につけていきます。

「三つ子の魂百まで」という言葉があるように、幼児期は「何に対して喜怒哀楽を感じるか」「何に価値を認めるか」「どのような心と能力が育つのか」という、第一段階の心と能力の成立期です。

では、その大切な時期を、親としてどのように接し、過ごせばよいのでしょうか？

その前に忘れてはいけな何かの手段として行うもです。単なる学校教育のテストの点数を取らせる「人間として」必ず身にならない、心と能力を育てべきです。お稽古事や習験のための学習も、それ高める教育でなければ意



いのは、幼児教育とはのではないということ先取りや、演習中心でための教育ではなく、つけておかなければなる「人間教育」であるい事、そして小学校受らを通じて心と能力を味がありません。

わが子の人生を豊かにする能力を育成すること、それが幼児教育の本来の目的です。ただ単に「教える」ということは、「できる・できない」の評価につながり、勉強嫌いの子どもを作ることにもなりかねません。子ども自身が生活の中で体験し、自ら学び、達成の喜びを感じることが出来る教育であるべきです。

ピグマリオン学育メソッドは、子どもたちが持つさまざまな芽を引き出せるよう、長年幼児教育に関わった経験を基に開発しました。脳の90%以上が出来上がるという幼児期に、正しい内容と正しい方法で一生役立つ思考力の基礎が育つように創られています。独自のオリジナル教具やカリキュラムによる効果は、すべて長年の経験と実績に裏打ちされています。驚異的な能力の向上を的確に創り出すピグマリオンメソッドを通じて、子どもたちの心と能力を育てるお手伝いのできればと願っています。そして、子どもたちが人間として豊かに育ち、未来と社会のために貢献することを信じています。